

場所 京都府京都市

面積 37.25ha

活動目的 ①チマキザサ群落の再生、②ササ葉利用に関わる在来知の継承と次世代の担い手育成、③ササ葉の利活用と流通の促進、④都市と山村が連携しながら森林資源利用を持続する仕組み（経済的、人的支援）の構築



サイト概要 京都市北部山間地域に自生するチマキザサ（チュウゴクザサ、*Sasa veitchii* var. *hirsuta*）は、京都の三大祭の一つである祇園祭の厄除け粽（厄病・災難除けのお守り）のほか、京料理や京菓子などに利用されてきた。その需要は、京都市内だけで年間約1,000万枚にのぼるとされ、長い歴史と四季折々の豊かな自然の中で洗練されてきた京都の文化を支えてきた。この地域のチマキザサは香りが良く、また葉の裏に毛がないために加工がしやすいという理由から好んで用いられ、17世紀末に書かれた地誌「雍州府志」にも、「他産不堪用（他産地のものは品質面から使用できない）」との記述があるほどである。チマキザサは洛中の文化を支えるだけでなく、京都市北部山間地域の暮らしを支える重要な生業の一つになっていた。また、花脊別所町周辺に伝わるチマキザサの採集と加工の営みは、農業や炭焼と同じように四季の暮らしの中に組み込まれ、現金収入の一つであるとともに、地域の里山の景観をつくった。

しかし、京都市北部では2004年から2007年にかけて、チマキザサが一斉に開花し群落のほぼ全てが枯れるとともに、近年増加した二ホンジカが新芽を食べ尽くしたため、自然環境下での再生は望めない状況となった。この危機に対応するため、2013年に地元住民、関係団体、京都市により「チマキザサ再生委員会」を立ち上げ、かつてチマキザサが自生していた場所にシカの侵入を防ぐ防鹿柵を設置するなど、チマキザサの保全・再生に取り組んでおり、本サイトはその対象地域の一部である。

土地利用の 変遷

本サイトが立地する花脊別所町は、京都市の北部山間地域（鞍馬地域以北）に位置している。かつての京に木材、木炭等を供給してきた地域であり、広範囲にわたって薪炭林が広がっていたが、近年は、薪炭林の多くがスギ人工林に置き換わっている。本サイトは、京都丹波高原国定公園の第3種特別地域に指定され、工作物の新築・増改築、土地の形状変更等の行為が制限されている。

サイト周辺の 環境

本サイトは、京都市の市街地から車で30～40分程度の場所に立地し、比較的豊かな自然が残っており、京都の奥座敷として親しまれている。本サイト周辺は、スギ人工林と落葉広葉樹を中心とした二次林が分布している。近年では二ホンジカの生息数が増えており、防鹿柵・ネットのない場所ではシカによる食害の被害が大きい。

アピール ポイント

伝統文化が消失する危機感のもと、地元を中心に防鹿柵の設置、防鹿柵内の環境整備など、チマキザサの再生と保全のための取組を行った結果、チマキザサの再生面積、生産量は着実に回復に向かっており、令和4年には商業的・文化的な活用が復活するまでに至った。また、チマキザサと同様にシカ食害を受けていたその他の下層植生も再生してきており、生態系の再生が期待される。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトが立地する花脊別所町は、広範囲にわたって薪炭林が広がっており、下層植生ではチマキザサが優先して生育していた。近年では、人工林に置き換わるとともに、チマキザサの一斉枯死・二ホンジカの食害により、植生が大きく変化したが、防鹿柵を設置し、チマキザサの保全・再生に取り組んだ結果、チマキザサをはじめとした多様な植物や動物の生息が見られる。

【主な植生】

区域内における主な植生は、クリーミズナラ群落であり、全体ではスギ・ヒノキ・サワラ植林、モチツツジ・アカマツ群落、アベマキ・コナラ群落が分布する。

【確認された主な動植物など】

区域は二ホンカモシカやアカショウビン、ハッチョウトンボをはじめとした希少な動植物が生息する京都丹波高原国定公園の一部に立地している。直近では植物27種、動物31種が確認されており、主な種は以下のとおり。

【植物】チマキザサ、クロモジ、クリ、サンショウ、コバノミツバツツジ、コナラ、スギ、ヒノキ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、アカマツ、ミズナラ

【哺乳類】二ホンジカ、ホンダダヌキ、アカギツネ、ホンダテン、ホンDOIタチ、ツキノワグマ、二ホンイノシシ、ノウサギ

【鳥類】カケス、ウグイス、ホトトギス、カワガラス、キセキレイ、エナガ、メジロ、シジュウカラ

【爬虫類】二ホントカゲ、二ホンカナヘビ

【昆虫類】カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ナナフシ、カラスアゲハ



写真の説明：二ホントカゲ



写真の説明：カラスアゲハ

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトの区域内には、チマキザサをはじめとした多様な植物の生育が見られる。チマキザサは、京料理や和菓子、祇園祭の厄除け粽の材料として利用されているほか、クロモジは和菓子を食べる際の黒文字に、サンショウが鞍馬寺門前の特産品・木の芽煮に使われている。さらに、当該地は桂川の源流域であり、多様な植生は水源涵養機能を担うとともに、土砂の流出や斜面の崩壊防止に寄与している。

【主な植生】

区域内における主な植生は、クリーミズナラ群落であり、全体ではスギ・ヒノキ・サワラ植林、モチツツジ・アカマツ群落、アベマキ・コナラ群落が分布する。

【確認された主な動植物など】

区域は二ホンカモシカやアカショウビン、ハッチョウトンボをはじめとした希少な動植物が生息する京都丹波高原国定公園の一部に立地している。直近では植物27種、動物31種が確認されており、主な種は以下のとおり。

【植物】チマキザサ、クロモジ、クリ、サンショウ、コバノミツバツツジ、コナラ、スギ、ヒノキ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、アカマツ、ミズナラ

【哺乳類】二ホンジカ、ホンドダヌキ、アカギツネ、ホンドテン、ホンドイタチ、ツキノワグマ、二ホンイノシシ、ノウサギ

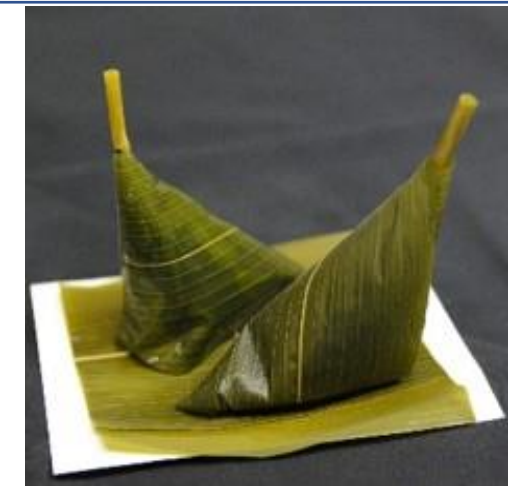
【鳥類】カケス、ウグイス、ホトトギス、カワガラス、キセキレイ、エナガ、メジロ、シジュウカラ

【爬虫類】ニホントカゲ、ニホンカナヘビ

【昆虫類】カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ナナフシ、カラスアゲハ



写真の説明：チマキザサの生育状況



写真の説明：チマキザサを使用した麩饅頭

生物多様性の価値

価値（5）伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

【場の概況】

本サイトが立地する花脊別所町は、広範囲にわたって薪炭林が広がっており、下層植生ではチマキザサが優先して生育していた。近年では、人工林に置き換わるとともに、チマキザサの一斉枯死・二ホンジカの食害により、植生が大きく変化したが、防鹿柵を設置し、チマキザサの保全・再生に取り組んだ結果、チマキザサをはじめとした多様な植物の生育や動物の生息が見られる。

【伝統文化等の名称】

- ・「祇園祭」：八坂神社の祭礼で、その祭事は、7月1日の「吉符入」に始まり7月31日の「疫神社夏越祭」まで、およそ1か月にわたって行われる。中でも、八坂神社の神輿渡御と34基の山鉾巡行は有名である。「京都祇園祭の山鉾行事」はユネスコ無形文化遺産にも登録されている。
- ・「厄除け粽」：祇園祭の名物の一つであり、ササの葉で作られた厄病・災難除けのお守りである。毎年祇園祭の時にだけ各山鉾のお会所や八坂神社で販売され、京都では多くの人々がこれを授与され一年間玄関先に飾る。

【活用している自然資源】

本サイトが立地する花脊別所町に生育するチマキザサは、従前から厄除け粽等の原材料として使用されてきた。京都の北部山間地域で生産されたチマキザサは、他所産に比べ葉が大きく、裏面に毛がなく加工しやすいなど、優れた特徴を持つ。



写真の説明：祇園祭の山鉾



写真の説明：厄除け粽

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<活動目的> ①チマキザサ群落の再生、②ササ葉利用に関わる在来知の継承と次世代の担い手育成、③ササ葉の利活用と流通の促進、④都市と山村が連携しながら森林資源利用を持続する仕組み（経済的、人的支援）の構築 <活動内容> 1 再生環境整備 防鹿柵の点検・メンテナンスを行う。また、日光を遮る支障木等を択伐し、チマキザサの再生・保全に良好な環境を整備する。 2 担い手確保及び技術承継支援 森林インストラクター等に呼びかけ、チマキザサの採取・選定のノウハウを承継する。また、一般市民向けのワークショップ等を開催する。 3 流通促進 チマキザサの新規需要を創出するため、チマキザサを原材料とする製品開発等を支援する。 4 周知拡大 保護区近隣の小学校、祇園祭の開催地近隣の小学校で学習会を開催する。また、京都市のホームページで活動に関する情報発信を行う。 <計画の点検・見直し> 年数回開催するチマキザサ再生委員会において活動の報告、点検を行い、随時見直しを行う。	【モニタリング対象】 チマキザサ及び利用価値の高い植物（有用植物） ・クロモジ…和菓子を食べる際の黒文字。お茶。 ・クリ…重要建築物の材料。 ・サンショウ…木の芽煮等で食べられる。 【モニタリング場所】 保護区内 【モニタリング手法】 再生状況、移植株の定着及び成長：コドラート法 再生状況と生育環境の関係：光調査（林冠を見上げ、目視で林冠の開放度を5段階で評価） 【モニタリングの実施時期及び頻度】 葉が展葉した6～7月頃 【モニタリング実施体制】 チマキザサ再生委員会、花脊別所チマキザサグループ